

# 複合過去形と半過去形の選択にかかわる タスクデザイン

—— 時制的弁別とアスペクト的弁別 ——

川 島 浩 一 郎\*

## 0 はじめに

複合過去記号素が完了アスペクト記号素であるのにたいして、半過去記号素は過去時制記号素である。つまり、これらの記号素は所属する文法カテゴリが同じではない。複合過去記号素は、アスペクト記号素である。半過去記号素は時制記号素である。

したがって複合過去記号素と半過去記号素を使い分けるためには、時制的な側面とアスペクト的な側面の両方を考慮する必要がある。複合過去記号素と半過去記号素のなかで、現在時間や未来時間に属する事態に直接的に対応ができるのは複合過去記号素だけである。半過去記号素は、事態に過去性を与えることしかできない。また複合過去記号素と半過去記号素のなかで、未完了の事態に直接的に対応ができるのは半過去記号素だけである。複合過去記号素は、事態の完了と常に結び付いている。

本稿では、上記の事実をふまえながら、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習するための具体的なタスク案を提示する。4.1.2では、表現する

---

\* 福岡大学人文学部教授

事態が現在時間や未来時間に属する事態であることを意識化させるタスク案を提示する。4.2.2では、表現する事態が過去時間にだけ属する事態であること（表現の対象となる時間領域が過去時間だけであること）を意識化させるタスク案を提示する。5.1.2では、表現する事態が未完了の事態であることを意識化させるタスク案を示す。5.2.2では、表現する事態が完了した事態であることを意識化させるタスク案を示す。

## 1 完了アスペクト記号素と過去時制記号素

### 1.1 複合過去記号素と半過去記号素の存在

発話のある切片が表意単位の実現形であるためには、その切片が、少なくとも次の2条件をみたすことが必要である。(i) 発話の一点で、他の切片（ゼロ切片でもよい）と入れ換えることができる。(ii) この入れ換えによって、発話の知的意味に弁別が生じる。知的意味という用語は、大略、言語共同体において共有される客観的、離散的な弁別にもとづく意味のことを指す。いわゆる適格文と非文の間にも、知的意味の弁別がある。最小の表意単位は記号素と呼ばれる。

(1) *J'ai eu* 16 ans. (*Elle*, 18 avril 2005, p.188)

(2) *Tout d'un coup, j'ai* 16 ans. (Frédéric Beigbeder, *L'amour dure trois ans*, Collection Folio, 1997, p.110)

複合過去の動詞形には、複合過去記号素の実現形が含まれる。たとえば(1)の*j'ai eu*と(2)の*j'ai*を比べれば、後者にはない切片が前者にあることは明らかである。この切片は、上記の条件(i)と条件(ii)をみたす。したがって、表意単位の実現形であると考えてよい。この切片は、複合過去記号素の実現形と呼ばれる。それが複合過去の動詞形を特徴づける最小の切片だからである。

(3) *Je vous cherchais partout*, [...]. (Françoise Sagan, *Aimez-vous*

(2)

*Brahms...*, Collection Pocket, 1959, p.28)

- (4) Je vous *cherche* partout...! (Philippe Djian, *37° 2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.6)

半過去の動詞形には、半過去記号素の実現形が含まれる。たとえば(3)の *je vous cherchais* には、(4)の *je vous cherche* には含まれていない切片が含まれている。この切片は、条件(i)と条件(ii)をみたす。したがって、表意単位の実現形であると考えてよい。この切片は、半過去記号素の実現形と呼ばれる。それが半過去の動詞形を特徴づける最小の切片だからである。

## 1.2 複合過去記号素：完了アスペクト記号素

複合過去記号素は、事態を完了したものとして提示するための記号素である。複合過去記号素とは、複合過去の動詞形を特徴づける最小の切片を実現形とする表意単位のことである(1.1を参照)。たとえば、複合過去記号素の実現形を含む(5)の *j'ai travaillé* を、未完了の事態として解釈することはできない。(5)において、働くという事態は進行中でもなければ、まだ始まっていないわけでもない。(5)の *j'ai travaillé* によって表現された事態は、発話時点において、すでに完了していると解釈してよい。

- (5) Hier, *j'ai travaillé*. (Françoise Sagan, *Aimez-vous Brahms...*, Collection Pocket, 1959, p.58)

- (6) Aujourd'hui, sur ce plan, les choses *ont changé*. (*Elle*, 24 janvier 2005, p.46)

- (7) T'as bientôt *fini* ? (Sylvie Testud, *Gamines*, Collection Le Livre de Poche, 2006, p.46)

- (8) Il transpirait comme un acteur qui *a oublié* son texte et qui voit se lever le rideau. (Pierre Boileau & Thomas Narcejac, *Terminus*, Collection Folio, 1980, p.203)

複合過去記号素は、時制記号素ではない。実際、複合過去記号素の使用には時間的な制約がみられない。たとえば（５）の *j'ai travaillé* は、過去時間に属する事態に言及している。（６）の *les choses ont changé* は現在時間に属する事態に、（７）の *t'as ... fini* は未来時間に属する事態に言及している。また（８）の *qui a oublié ...* は、特定の時間領域に属する事態への言及ではない。複合過去記号素は、このように、時間概念のない非時間的な概念領域を含む、すべての時間領域に対応が可能である。

以上より、複合過去記号素は完了アスペクト記号素だと考えてよい。複合過去記号素は、事態が完了していることを標示するための表意単位である。複合過去記号素の使用に時間的な制約は生じない。複合過去記号素は時制記号素ではないからである。

### 1.3 半過去記号素：無標の過去時制記号素

半過去記号素は、過去時制記号素である。半過去記号素とは、半過去の動詞形を特徴づける最小の切片を実現形とする表意単位のことである（1.1を参照）。この記号素の本質的な表意機能は、事態に過去性を与えることである。たとえば、半過去記号素の実現形を含む（９）の *était* という動詞形は、この発話が表す事態が過去時間に属することに対応している。

（９） *Il était 14 heures.* (Thierry Jonquet, *Du passé faisons table rase*, Collection Folio, 2006, p.164)

（10） *Il est 14 heures, [...].* (*Elle*, 18 juillet 2005, p.46)

半過去記号素は、無標の過去時制記号素である。半過去記号素は、それ自身では、過去性を標示することしかできない<sup>1</sup>。たとえば（９）の *était* という動

---

<sup>1</sup> 半過去記号素が無標の過去時制記号素であることについては、渡瀬（1985, 1990, 1994, 1995, 1998, 2013）や川島（2006, 2012a, 2012b, 2012c, 2013, 2014b, 2015a, 2015b）を参照。

詞形は事態が過去時間に属することに対応し、(10) の est は事態が現在時間に属することに対応している。(9) と (10) の表意的な違いは、事態の時間的な位置づけが「過去」にあるか「現在」にあるかだけである。(9) における半過去記号素の存在理由は、事態に過去性を与えることであって、それ以上でも以下でもない (2.2.1 と 2.2.2 を参照)。

## 2 アスペクト的弁別：完了した事態と未完了の事態

### 2.1 複合過去記号素と完了した事態

複合過去記号素は、事態が（いずれかの時点で）完了していることを常に標示する。複合過去記号素は、完了アスペクト記号素だからである (1.2 を参照)。たとえば (11) の j'ai pris ... を、未完了の事態として解釈することはできない。(11) において「わたしがコーヒーを飲む」という事態は、これから始まるのでもなければ、進行中でもない。この事態は、(11) において、すでに完了した事態として提示されている。

(11) *J'ai pris un café.* (Patrice Leconte, *Les Femmes aux cheveux courts*,  
Collection Le Livre de Poche, 2009, p.97)

したがって事態が未完了であることを、複合過去記号素によって表現することはできない。複合過去記号素の使用は、事態の完了と常に結びついているからである。複合過去記号素を使って提示された事態は、いずれかの時点、何らかの意味で完了していると考えざるをえない。

### 2.2 半過去記号素と事態の完了、未完了

#### 2.2.1 半過去記号素と完了した事態

半過去記号素は、無標の過去時制記号素である。半過去記号素にできるのは、事態を過去時間に位置づけることだけである (1.3 を参照)。たとえば (12) の

sortais に含まれる半過去記号素の実現形は、いわゆる「現在」の動詞形を用いた *cinq minutes plus tard, je sors de la pièce, la mine défaite* に過去性を与えているに過ぎない。半過去記号素にとって、アスペクト的な弁別は非関与的であると考えるべき。

(12) *Cinq minutes plus tard, je sortais de la pièce, la mine défaite.* (Agnès Abécassis, *Toubib or not toubib*, Collection Le Livre de Poche, 2008, p.101)

(13) *Dix minutes plus tard, ils sortent tous les deux du magasin.* (Nicole de Buron, *Vas-y maman*, Collection J'ai lu, 1978, p.84)

したがって半過去記号素は、完了した事態に対応することができる。半過去記号素にとって、事態が完了しているのかそうでないのかの弁別は非関与的である<sup>2</sup>。それが無標の過去時制記号素だからである。実際 (12) の *je sortais ...* は、(13) の *ils sortent ...* と同様に、完了した事態として解釈される。

## 2.2.2 半過去記号素と未完了の事態

半過去記号素は、無標の過去時制記号素である。半過去記号素は、事態の時間的な位置づけが過去にあることしか標示できない (1.3 を参照)。たとえば (14) の *arrivait* に含まれる半過去記号素の実現形は、いわゆる「現在」の動詞形を用いた *de loin, Marc arrive à vélo* にたいして、過去性を与えることしかしていない。半過去記号素にとって、アスペクト的な弁別は非関与的であると考えるべき。

(14) *De loin, Marc arrivait à vélo.* (Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p.155)

(15) *Le cargo on le voit de loin. Il arrive, on observe sa trajectoire, [...].*

---

<sup>2</sup> 半過去記号素に未完了アスペクトが内在しているとする考え方は正しくない。詳細は川島 (2012a) を参照。

(Internet)

したがって半過去記号素は、未完了の事態に対応することができる。半過去記号素は、事態が完了していることも完了していないことも、それ自身では明示ができない。半過去記号素が無標の過去時制記号素だからである。つまり半過去記号素にとって、事態が完了しているのか未完了であるのかは非関与的な弁別である。実際 (14) の... Marc arrivait ...は、(15) の il arrive と同じく、未完了の事態として解釈される。

### 2.3 使い分けの基準としての事態の完了、未完了

複合過去記号素と半過去記号素のうち、未完了の事態に対応することができるのは半過去記号素だけである。複合過去記号素は、事態の完了を標示せざるをえない (2.1 を参照)。それが完了アスペクト記号素だからである (1.2 を参照)。一方、半過去記号素は未完了の事態に対応することができる (2.2.2 を参照)。半過去記号素は無標の過去時制記号素だからである (1.3 を参照)。

(16) J'étais à moitié réveillé quand il *est arrivé* ! (Philippe Djian, *37° 2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.34)

(17) Je n'ai pas eu l'occasion de le saluer, il est parti alors que j'*arrivais*.  
(Marc Levy, *La première nuit*, Collection Pocket, 2009, p.118)

複合過去記号素と半過去記号素はいずれも、完了した事態に対応することができる。複合過去記号素は、事態の完了を標示するための表意単位である (2.1 を参照)。半過去記号素にとっては、事態が完了していてもよいし完了していなくてもよい (2.2.1 と 2.2.2 を参照)。たとえば (16) の il est arrivé や (17) の j'arrivais はいずれも、完了した事態として提示されている。

(18) Il *arrivait* en traînant la patte. (Philippe Djian, *37° 2 le matin*, Collection J'ai lu, 1985, p.12)

ただし複合過去記号素と半過去記号素のなかで、事態が完了していることを

明確に標示することができるのは複合過去記号素だけである。複合過去記号素は、事態の完了を常に標示する表意単位である（2.1を参照）。たとえば（16）の *il est arrivé* は、何らかの意味で、完了した事態として解釈せざるをえない。一方、半過去記号素は事態が完了しているのかそうでないのかを明示する表意機能を備えていない（2.2.1と2.2.2を参照）。実際（18）の *il arrivait ...* が完了した事態であるのか未完了の事態であるのかは、文脈や状況による。

したがって、事態を完了したものとして提示するのか未完了のものとして提示するのかという基準だけでは、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けが十分にできるとはかぎらない。確かに、事態を未完了の事態として提示する場合には、半過去記号素を用いるしかない。複合過去記号素は、半過去記号素とは異なり、未完了の事態に対応できないからである。しかし、事態を完了したものとして提示するという理由だけでは、複合過去記号素を選ぶのが適切なのか半過去記号素を選ぶのが適切なのかを決定することはできない。複合過去記号素と半過去記号素はどちらも、完了した事態に対応が可能だからである。事態が完了していることを明示するのか明示しないのかを判断する必要がある<sup>3</sup>。

### 3 時制的弁別：現在時間、未来時間に属する事態への対応

#### 3.1 現在時間、未来時間の事態と複合過去記号素

複合過去記号素は、現在時間に属する事態に対応することができる。複合過

---

<sup>3</sup> 事態が完了していることを明示するのか明示しないのかという基準によって、原理的には、複合過去記号素と半過去記号素を十分に使い分けることができる。事態の完了を明示する場合は、複合過去記号素を選択すればよい。事態が未完了であるか、あるいは、事態が完了していてもそれを明示する必要がない場合は、半過去記号素を選択すればよい。しかし事態の完了を明示する必要があるのかないのかの判定は、かならずしも容易ではないと思われる。本稿では、この判定を避けたタスクを提案している。



去記号素は時制記号素ではなく、アスペクト記号素だからである (1.2 を参照)。複合過去記号素は、それ自身に、事態が属する時間領域を特定する表意機能を備えていない。たとえば (19) の *Mathilde est déjà rentrée chez elle*, (20) の *je n'ai jamais menti*, (21) の *j'ai toujours adoré ...* はどれも、現在時間に属する事態に対応している。

(19) *Mathilde est déjà rentrée chez elle.* (Tonino Benacquista, *Saga*, Collection Folio, 1997, p.274)

(20) *Je n'ai jamais menti !* (Georges Simenon, *La maison des sept jeunes filles*, Collection Folio, 1945/1954, p.91)

(21) *J'ai toujours adoré la peinture, la poésie et surtout le théâtre.* (*Elle*, 25 avril 2005, p.107)

(22) [...], vous m'appelez dès que *vous avez fini*. (Brigitte Aubert, *Descentes d'organes*, Collection Points, 2001, p.19)

(23) *Nous sommes bientôt arrivés à la maison. Plus que quelques rues.* (Agnès Abécassis, *Au secours, il veut m'épouser !*, Collection Le Livre de Poche, 2007, p.56)

複合過去記号素は、未来時間に属する事態に対応することもできる。アスペクト記号素である複合過去記号素は、それ自身では、事態が属する時間領域を特定する表意機能をもたないからである。実際 (22) の *vous avez fini* や (23) の *nous sommes ... arrivés ...* は、未来時間に属する事態に対応している。

### 3.2 現在時間、未来時間の事態と半過去記号素

半過去記号素の実現形を含む切片を使って現在時間あるいは未来時間に属する事態に言及することによって、そこにモダリティ的な価値が生じる可能性がある。たとえば (24) の *si c'était vrai* が (単なる仮定ではなく) 非現実の仮定として解釈されるのは、この切片を使って現在時間に属する事態に言及してい

るからである<sup>4</sup>。(25)の *si tu devenais maire du village ...*<sup>5</sup> (単なる仮定ではなく) 実現の可能性の低い仮定として解釈されるのは、この切片を使って未来時間に属する事態に言及しているからである。(26)の *si Lucienne mourait* や (27)の *s'il partait maintenant pour Boston* にみられるように、半過去記号素の実現形を含む切片によって過去時間に属する事態に言及する場合、そこにモダリティ的な価値はとくに生じない<sup>5</sup>。半過去記号素は、元来、事態に過去性を与えるための記号素だからである (1.3 を参照)。

(24) *Mais si c'était vrai, les gens auraient réagi. Et tu vois bien qu'ils ne réagissent pas.* (Amélie Nothomb, *Les Combustibles*, Collection Le Livre de Poche, 2002, p.83)

(25) [...], *si tu devenais maire du village plus tard, ça te plairait ?* (Marc Levy, *Le voleur d'ombres*, Collection Pocket, 2010, p.64)

(26) *Chavane pensa que si Lucienne mourait il quitterait son emploi ; [...].* (Pierre Boileau & Thomas Narcejac, *Terminus*, Collection Folio, 1980, p.202)

(27) *Il regarda sa montre : bientôt midi. S'il partait maintenant pour Boston, il ne serait pas rentré à Manhattan avant 21 heures.* (Guillaume Musso, *Je reviens te chercher*, Collection Pocket, 2008, p.241)

(28) *Hier on respectait les aînés, aujourd'hui on valorise les jeunes, demain on redécouvrira les vieux.* (Agnès Abécassis, *Chouette, une*

---

<sup>4</sup> 厳密に言えば、仮定を提示する *Si* 節に現れることのできる過去時制記号素は、半過去記号素ではなく、原過去時制記号素 (半過去記号素と単純過去記号素の機能的共通部分) である。仮定を提示する *Si* 節において、半過去記号素と単純過去記号素の対立は中和する。詳細は川島 (2015b) を参照。本稿では、仮定を提示する *Si* 節に現れることのできる過去時制記号素を半過去記号素として記述するが、論旨に問題はない。半過去記号素も原過去時制記号素も、過去時制記号素であることにはかわりはない。

<sup>5</sup> 過去時制記号素の使用はモダリティ的価値の発生と矛盾しない。詳細は川島 (2012b) や川島 (2013) を参照。

*ride !*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p.261)

したがって半過去記号素は、モダリティ的な価値をとまなわなにかぎり、現在時間や未来時間に属する事態に対応することができない。半過去記号素は、それ自身では、事態に過去性を与えることしかできない。半過去記号素は、過去時制記号素だからである (1.3 を参照)。実際 (28) の *on respectait les aînés* は、過去時間に属する事態に対応しているだけである<sup>6</sup>。この事態が現在時間や未来時間においても維持されているのかそうでないのかを明示するためには、たとえば *aujourd'hui on valorise les jeunes* や *demain on redécouvrira les vieux* のような、半過去記号素以外の表意単位が必要である。

### 3.3 複合過去記号素と半過去記号素の使い分けと現在時間、未来時間の事態

複合過去記号素と半過去記号素のうち、現在時間や未来時間に属する事態に対応することができるのは複合過去記号素だけである。半過去記号素は、モダリティ的な価値をとまなわなにかぎり、現在時間や未来時間に属する事態に対応することができない (3.2 を参照)。それが過去時制記号素だからである (1.3 を参照)。他方、複合過去記号素は現在時間や未来時間に属する事態に対応することができる (3.1 を参照)。複合過去記号素は時制記号素ではなく、アスペクト記号素だからである (1.2 を参照)。

したがって、モダリティ的な価値が関与しないかぎり、現在時間あるいは未来時間に属する事態に言及するのかわからないのかという基準によって、複合過去記号素と半過去記号素を使い分けることができる。モダリティ的な価値が関与しないという前提のもとで現在時間あるいは未来時間に属する事態に言及する場合には、半過去記号素ではなく、複合過去記号素を選択せざるをえない。半過去記号素は、モダリティ的な価値をとまなわなにかぎり、現在時間あるいは未来時

---

<sup>6</sup> 詳細は川島 (2012c) や川島 (2015a) を参照。

間に属する事態に対応ができないからである。

### 3.4 複合過去記号素と半過去記号素の使い分けと過去時間の事態

複合過去記号素は、それ自身では、言及対象を過去時間に属する事態だけに制限することができない。複合過去記号素は、事態が属する時間領域を特定する表意機能を備えていない。それがアスペクト記号素だからである（1.2を参照）。実際（29）が現在時間に属する事態を表現したものであるのか過去時間に属する事態を表現したものであるのかは、文脈や状況による。複合過去記号素を使用して事態を過去時間に明確に位置づけるためには、たとえば（30）の *hier* のような、複合過去記号素以外の表意単位が必要となる。

(29) *Il est parti.* (Tonino Benacquista, *Saga*, Collection Folio, 1997, p. 193)

(30) *Ludwig est parti hier.* (Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p.109)

(31) *Juliette partait chercher son sac dans les cuisines.* (Fred Vargas, *Debout les morts*, Collection J'ai lu, 1995, p.198)

他方、半過去記号素はモダリティ的価値が関与しないかぎり、過去時間に属する事態にしか対応ができない。つまり表現の対象となる時間領域は、過去時間のみである。半過去記号素は過去時制記号素だからである（1.3と3.2を参照）。たとえば（31）の *Juliette partait ...* は、通常であれば、過去時間に属する事態だと考えざるをえない。これを（少なくともモダリティ的価値の関与なしに）現在時間や未来時間に属する事態として解釈することは非常に難しい。

## 4 現在時間や未来時間に属する事態であるのかどうかを意識化させるタスク

### 4.1 現在時間や未来時間に属する事態であることを意識化させるタスク

#### 4.1.1 基本方針：複合過去記号素と現在時間，未来時間

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けにおいては，表現する事態が現在時間や未来時間に属するのさそうでないのかを，意識化することが有効である。複合過去記号素は，現在時間や未来時間に属する事態に対応ができる（3.1と3.3を参照）。一方，半過去記号素は，モダリティ的価値をとまなわなにかぎり，現在時間や未来時間に属する事態に対応ができない（3.2と3.3を参照）。

事態が現在時間や未来時間に属することは，事態が過去時間に属することよりも，優先的に意識化されてよい。複合過去記号素と半過去記号素のうち，現在時間や未来時間に属する事態に対応ができるのは複合過去記号素だけだからである（3.3を参照）。一方，過去時間に属する事態には複合過去記号素と半過去記号素のいずれでも対応が可能である（3.4を参照）。モダリティ的価値が関与しさえしなければ，現在時間あるいは未来時間に属する事態に言及するという条件だけで，半過去記号素を選択肢から排除することができる。

したがって複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては，まず，表現する事態が現在時間や未来時間に属する事態であることを意識化させるタスクが有効だと考えられる。事態が現在時間や未来時間に属することを意識化できれば，事態が過去時間に属することも意識化できるはずである（4.2.1と4.2.2を参照）。具体的なタスク案を，次の4.1.2で示す。

#### 4.1.2 具体的なタスク案：複合過去記号素と現在時間，未来時間

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては，表現する事態が現在時間や未来時間に属する事態であることを意識化させるタスク

が有効だと思われる。複合過去記号素と半過去記号素のうち、現在時間や未来時間に属する事態に対応できるのが複合過去記号素だけだからである（3.3と4.1.1を参照）。以下、具体的なタスク案を示す<sup>7</sup>。

次の日本語をフランス語で表現するとき、( )のなかの動詞形を、複合過去形にするのが適切か半過去形にするのが適切か判断してください。なお[ ]のなかの指示は、発言の意図を表します<sup>8</sup>。この指示に従うこと。

- (a) 結婚していたことはありますか？[過去の状態ではなく現時点での結婚経験の有無を尋ねる]

Tu (es) marié ?

- (b) ひとを好きになったことはありますか？[過去の状態ではなく現時点での恋愛経験の有無を尋ねる]

Vous (aimez) quelqu'un ?

- (c) この小説、気に入りました。[過去のことよりも、現時点において気に入っていることを表現する]

J' (aime) ce roman.

- (d) 火曜日がずっと嫌いでした。[過去のことよりも、現時点において嫌いであることを表現する]

Je (déteste) toujours les mardis.

- (e) 彼女はいつからいないのですか？[現時点において、彼女がそこにいないことを表現する]

Elle (part) depuis combien de temps ?

---

<sup>7</sup> タスクの難易度は、問題文や[ ]のなかの指示を変えることで調整ができる。

<sup>8</sup> 和文仏訳では、和文のかたちにとられるのではなく、発話の意図（出題の意図）を仏文に反映させることが重要である。ただし、発話の意図（出題の意図）を学習者に読み取らせる必要はかならずしもない。和文仏訳は、和文読解の訓練ではないからである。場合によっては、出題の意図を出題者が明記することが、学習者にとっての時間および労力の節約になる。

- (f) 実は、昨晚から寝てないのです。[過去の出来事ではなく、現時点での不眠の状態に言及する]  
En fait, je ne (dors) pas de la nuit.
- (g) いま彼は、姿を消してしまっています。[過去の出来事ではなく、現在の失踪状態に言及する]  
Et maintenant, il (disparaît).
- (h) 着いたらすぐに連絡します。[到着するのは未来に想定した出来事]  
Je t'appelle dès que j' (arrive).

このタスクの目的は、現在時間あるいは未来時間に属する事態を複合過去記号素に結びつけることにある。つまり正解はすべて「複合過去形」であることが想定されている。このタスクのなかに「半過去形」でも正解となるような問題が含まれていてもかまわない。複合過去記号素と半過去記号素を直接的に弁別することを目的とするタスクではないからである。

## 4.2 過去時間に属する事態であることを意識化させるタスク

### 4.2.1 基本方針：半過去記号素と過去時間にのみ属する事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けにおいては、表現する事態が過去時間に属するのかわからないのかを意識化することが有効である。半過去記号素は、モダリティ的価値をとまなわなにかぎり、過去時間に属する事態にしか対応ができない(3.2と3.4を参照)。つまり表現の対象となる時間領域は、過去時間のみである。他方、複合過去記号素は、それ自身では、もっぱら過去時間に属する事態だけに言及することができない(3.4を参照)。複合過去記号素は、現在時間や未来時間に属する事態にも対応できてしまうからである。

したがって、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては、表現する事態が過去時間にだけ属する事態であることを意識化させる

タスクが有効だと考えられる<sup>9</sup>。事態を過去時間にのみ属するものとして提示するという条件によって、複合過去記号素を選択肢から排除することができる(3.4を参照)。具体的なタスク案を、次の4.2.2で示す。

#### 4.2.2 具体的なタスク案：半過去記号素と過去時間にのみ属する事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては、表現する事態が過去時間にだけ属する事態であること(表現の対象となる時間領域が過去時間のみであること)を意識化させるタスクが有効と思われる。複合過去記号素と半過去記号素のなかで、もっぱら過去時間に属する事態にのみ対応できるのが半過去記号素だけだからである(3.4と4.2.1を参照)。以下、具体的なタスク案を示す。

次の日本語をフランス語で表現するとき、( )のなかの動詞形を、複合過去形にするのが適切か半過去形にするのが適切か判断してください。なお[ ]のなかの指示は、発言の意図を表します。この指示に従うこと。

- (i) すでに何人かの旅行者は到着していた。[過去のある時点での状態を表現する。現状には言及しない]

Déjà, quelques voyageurs (arrivent).

- (j) そのとき、結婚はしてたのですか？[過去のことを尋ねる。現状については尋ねない]

Tu (es) marié, toi ?

- (k) マリーにタバコを吸う習慣はなかった。[過去の習慣を表現する。現時点での喫煙習慣の有無については言及しない]

---

<sup>9</sup> 過去時間だけに属する事態という概念は、初学者にとってやや分かりにくいものかもしれない。しかし、時間軸上に図示するなどの方法で理解を促すことは十分に可能だと思われる。



Marie ne (fume) pas.

- (l) 以前、彼女とつきあってなかったっけ？[過去の交際について確認する。現時点で交際しているのかどうかは問題にしていない]

Tu (sors) avec elle avant, non ?

- (m) 昨日は寝ませんでした。[昨日のことを話しているだけ。現時点の状況には言及しない]

Hier, je ne (dors) pas.

このタスクの目的は、過去時間だけに属する事態を半過去記号素に結びつけることにある。つまり正解はすべて「半過去形」であることが想定されている。このタスクのなかに「複合過去形」でも正解となるような問題が含まれていてもかまわない。複合過去記号素と半過去記号素を直接的に弁別することを目的とするタスクではないからである。

## 5 完了した事態と未完了の事態の弁別を意識化させるタスク

### 5.1 事態が未完了であることを意識化させるタスク

#### 5.1.1 基本方針：半過去記号素と未完了の事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けにおいては、表現する事態が未完了の事態であるのかそうでないのかを意識化することが有効である。半過去記号素は、完了した事態にも未完了の事態にも対応することができる(2.2.1と2.2.2を参照)。一方、複合過去記号素は完了した事態にしか対応することができない(2.1と2.3を参照)。

事態が未完了であることは、事態が完了していることよりも、優先的に意識化されてよい。複合過去記号素と半過去記号素のうち、未完了の事態に対応ができるのは半過去記号素だけだからである(2.3を参照)。一方、完了した事

態には複合過去記号素と半過去記号素のいずれでも対応が可能である (2.3を参照)。事態を未完了のものとして提示するという条件だけで、複合過去記号素を選択肢から排除することができる。

以上より、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては、表現する事態が未完了の事態であることを意識化させるタスクが有効だと考えられる。事態が未完了であることを意識化できれば、完了した事態も意識化できる (5.2.1を参照)。具体的なタスク案を、次の5.1.2で示す。

### 5.1.2 具体的なタスク案：半過去記号素と未完了の事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては、表現する事態が未完了の事態であることを意識化させるタスクが有効だと思われる。複合過去記号素と半過去記号素のうち、未完了の事態に対応できるのが半過去記号素だけだからである (2.3と5.1.1を参照)。以下、具体的なタスク案を示す。

次の日本語をフランス語で表現するとき、( )のなかの動詞形を、複合過去形にするのが適切か半過去形にするのが適切か判断してください。なお[ ]のなかの指示は、発言の意図を表します。この指示に従うこと。

- (n) あ！大事なことを忘れるところでした。[忘れかけはしたが、忘却はまだ完了していない]

Ah ! j' (oublie) un détail important.

- (o) 車でお送りしましょうか？ちょうど会社に行くところでした。[会社に行く予定ではあるが、行くという行為はまだ完了してはいない]

Je peux vous déposer ? Je (pars) pour le bureau.

- (p) 帰ろうとしてたら、マリーに呼びとめられた。[帰るという行為は進行中で、まだ完了していない]

Marie m'a rappelé alors que je m' (eclipse).

- (q) ブラッスリーから外に出たら雨が降っていた。[雨が降っている最中。雨降りは進行中で、まだ終わっていない]

Il (pleut) quand tu es sorti de la brasserie.

- (r) 夫に出会ったのは、その前の年の夏でした。そのとき夫は、パリで休暇を過ごしているところでした。[休暇を過ごしている最中。休暇は進行中で、まだ終わっていない]

J'avait rencontré mon mari l'été d'avant, il (passe) ses vacances à Paris.

- (s) メアリーが着替えを終えようとしていたら彼が部屋に戻ってきた。[着替えという行為はまだ完了していない]

Mary (finit) de s'habiller quand il est revenu dans la chambre.

このタスクの目的は、未完了の事態を半過去記号素に結びつけることにある。つまり正解はすべて「半過去形」であることが想定されている。このタスクのなかに「複合過去形」でも正解となるような問題が含まれていてもかまわない。複合過去記号素と半過去記号素を直接的に弁別することを目的とするタスクではないからである。

## 5.2 事態が完了していることを意識化させるタスク

### 5.2.1 基本方針：複合過去記号素と完了した事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けにおいては、表現する事態が完了した事態であることを意識化することが有効である。複合過去記号素は、事態が完了していることを明示できる(2.1と2.3を参照)。半過去記号素は、それ自身では、事態の完了を明示することはできない(2.2と2.3を参照)。

したがって、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程にお

いては、表現する事態が完了した事態であることを意識化させるタスクが有効だと考えられる。事態が完了していることを明確に標示するという基準によって、半過去記号素を選択肢から排除することができる。具体的なタスク案を、次の5.2.2で示す。

### 5.2.2 具体的なタスク案：複合過去記号素と完了した事態

複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習する過程においては、表現する事態が完了した事態であることを意識化させるタスクが有効だと思われる。複合過去記号素と半過去記号素のうち、事態が完了していることを明示できるのが複合過去記号素だけだからである（2.3と5.2.1を参照）。以下、具体的なタスク案を示す。

次の日本語をフランス語で表現するとき、( )のなかの動詞形を、複合過去形にするのが適切か半過去形にするのが適切か判断してください。なお[ ]のなかの指示は、発言の意図を表します。この指示に従うこと。

- (t) 23歳から28歳まで、彼は結婚していた。[28歳で結婚関係は完了した。つまり終わった。離婚した]

Il (est) marié de vingt-trois à vingt-huit ans.

- (u) 「ご結婚されているのですか?」「してはいました」[結婚している状態は完了した。つまり終わった。離婚した]

—Vous êtes mariée?— Je le (suis).

- (v) 彼女は看護師でした。[彼女が看護師である状態は完了した。つまり終わった。辞職した]

Elle (est) infirmière.

- (w) 25年前、マリーはぼくの弟とつきあっていて。[交際関係は現時点では完了している。つまり終わっている。マリーと弟は別れた]

Marie (sort) avec mon frère, il y a vingt-cinq ans.

- (x) 長い間タバコを吸ってました。[その習慣はもうない。喫煙の習慣は完了した。つまり終わった]

Je (fume) longtemps.

- (y) ありのままの君が好きでした。[現在はとくに好きではない。好意のある状態は完了した。つまり終わった]

Je t' (aime) telle que tu es.

- (z) ありゃ、名前を忘れてしまった... [忘れつつあるのではなく、忘却はすでに完了した]

Zut, j' (oublie) le nom...

このタスクの目的は、事態が完了していることの明示を複合過去記号素に結びつけることにある。つまり正解はすべて「複合過去形」であることが想定されている。このタスクのなかに「半過去形」でも正解となるような問題が含まれていてもかまわない。複合過去記号素と半過去記号素を直接的に弁別することを目的とするタスクではないからである。

## 6 まとめ

複合過去記号素と半過去記号素の弁別には、時制的な側面とアスペクト的な側面がある。これらの記号素が所属する文法カテゴリは、同一ではない。複合過去記号素は、完了アスペクト記号素である。半過去記号素は、過去時制記号素である。

したがって複合過去記号素と半過去記号素を使い分けには、時制的な条件とアスペクト的な条件の両方が必要である。複合過去記号素は、現在時間や未来時間に属する事態に対応ができる。半過去記号素は、モダリティ的価値が関与

しないかぎり、事態に過去性を与えることしかできない。また半過去記号素は、未完了の事態に対応ができる。複合過去記号素は、完了した事態にしか対応ができない。

本稿では、上記の事実をふまえながら、複合過去記号素と半過去記号素の使い分けを学習するための具体的なタスク案を提示した。提示したタスク案は、たとえば次のようなものである。同様の学習ができさえすれば、和文仏訳である必然性はとくにない。

次の日本語をフランス語で表現するとき、( ) のなかの動詞形を、複合過去形にするのが適切か半過去形にするのが適切か判断してください。なお[ ]のなかの指示は、発言の意図を表します。この指示に従うこと。

実は、昨晚から寝てないのです。[過去の出来事ではなく、現時点での不眠の状態に言及する]

En fait, je ne (dors) pas de la nuit.

昨日は寝ませんでした。[昨日の話をしているだけ。現状には言及しない]

Hier, je ne (dors) pas.

以前、彼女とつきあってなかったっけ？[過去の交際について確認する。現時点で交際しているのかどうかは問題にしていない]

Tu (sors) avec elle avant, non ?

25年前、マリーはぼくの弟とつきあっていた。[交際関係は現時点では完了している。つまり終わっている。マリーと弟は別れた]

Marie (sort) avec mon frère, il y a vingt-cinq ans.

あ！大事なことを忘れるところでした。[忘れかけはしたが、忘却はまだ完了していない]

Ah ! j' (oublie) un détail important.

結婚していたことはありますか？[過去のことでなく現時点での結婚経

験の有無を尋ねる]

Tu (es) marié ?

そのとき、結婚はしてたのですか？[過去のことを尋ねる。現状については尋ねない]

Tu (es) marié, toi ?

23歳から28歳まで、彼は結婚していた。[28歳で結婚関係は完了した。つまり終わった。離婚した]

Il (est) marié de vingt-trois à vingt-huit ans.

これらのタスクの目的は、時制的な弁別やアスペク的な弁別を意識化することにある。必要な弁別を意識にのぼらせることは、言語学習にとっての重要なプロセスであると想定してよい。タスクのなかに「複合過去形」でも「半過去形」でも正解となるような問題が含まれていてもかまわない。複合過去記号素と半過去記号素を直接的に弁別することを目的とするタスクではないからである。

## 参考文献

- 川島浩一郎 (2006) 「フランス語の複合過去と半過去に関する一考察 — 時制とアスペクトの間接的対立 —」『福岡大学研究部論集』A6-3, 37-61.
- 川島浩一郎 (2012a) 「半過去と未完了解釈 — 完了か未完了かの区別を含意しない過去時制 —」『福岡大学人文論叢』43-4, 817-833.
- 川島浩一郎 (2012b) 「過去時制と非現実解釈」『ふらんばー』37, 東京外国語大学フランス語研究室, 17-35.
- 川島浩一郎 (2012c) 「時間的な対比を表す半過去について」『福岡大学研究部論集』A12-2, 9-13.
- 川島浩一郎 (2013) 「半過去と非現実の帰結 — 間一髪の半過去をめぐって —」『福岡大学研究部論集』A13-1, 25-31.

- 川島浩一郎 (2014a) 「複合過去と単純過去の対立の中和」『ふらんばー』39, 東京外国語大学フランス語研究室, 45-65.
- 川島浩一郎 (2014b) 「教科書における無標の過去時制: 半過去の教え方」『Rencontres』28, 関西フランス語教育研究会, 107-111.
- 川島浩一郎 (2015a) 「複合過去と半過去の区別に関する一考察— 現在時との関係の有無—」『福岡大学人文論叢』47-1, 151-163.
- 川島浩一郎 (2015b) 「仮定を提示する Si 節における半過去記号素と単純過去記号素の対立の中和— 半過去記号素と原過去時制記号素—」『福岡大学人文論叢』47-2, 497-519.
- 渡瀬嘉朗 (1985) 「動詞の「時」と「相」」『フランス語学の諸問題』三修社, 38-49.
- 渡瀬嘉朗 (1990) 「「未完了」特性について」『東京外国語大学論集』41, 23-38.
- 渡瀬嘉朗 (1994) 「Actuel と Inactuel —「現在」と「半過去」, 「大過去」—」『東京外国語大学論集』48, 43-58.
- 渡瀬嘉朗 (1995) 「時制の理論のために— 文意の分析と時制の対立—」『東京外国語大学論集』50, 35-50.
- 渡瀬嘉朗 (1998) 「二つの過去形— 意味の枠組みの明確な過去, 枠組みのない過去—」『フランス語を考える フランス語学の諸問題 II』三修社, 8-21.
- 渡瀬嘉朗 (2013) 「時制とマルク」『フランス語をとらえる フランス語学の諸問題 IV』三修社, 10-16.

### 付録：タスク案作成資料

- (a) Tu *as été* marié ? (Jean-Christophe Grangé, *La ligne noire*, Collection Le Livre de Poche, 2004, p.313)
- (b) Vous *avez aimé* quelqu'un, Reine ? (Marc Levy, *Sept jours pour une éternité...*, Collection Pocket, 2002, p.177)
- (c) J'*ai aimé* ce roman. (*Elle*, 7 mars 2005, p.62)
- (d) J'*ai toujours détesté* les mardis. (Frédéric Beigbeder, *Windows on the World*, Collection Folio, 2003, p.197)
- (e) Elle *est partie* depuis combien de temps ? (Sébastien Japrisot, *Compartiment tueurs*, Collection Folio, 1962, p.144)



- (f) En fait, je n'ai pas *dormi* de la nuit. (Maxime Chattam, *L'âme du mal*, Collection Pocket, 2002, p.54)
- (g) Et maintenant, il a *disparu*. (Fred Vargas, *Debout les morts*, Collection J'ai lu, 1995, p.25)
- (h) Je t'appelle dès que je *suis arrivée*, [...]. (Maxime Chattam, *La théorie Gaïa*, Collection Pocket, 2008, p.25)
- (i) Déjà, quelques voyageurs *arrivaient*. (Pierre Boileau & Thomas Narcejac, *Terminus*, Collection Folio, 1980, p.21)
- (j) T'*étais* marié, toi ? (Fred Vargas, *Un peu plus loin sur la droite*, Collection J'ai lu, 1996, p.107)
- (k) Marie ne *fumait* pas. (Andrea H. Japp, *La saison barbare*, Collection J'ai lu, 2003, p.123)
- (l) Tu *sortais* avec elle avant, non ?... (Arnaud Desplechin, *Commet je me suis disputé... (ma vie sexuelle)*, Hachette, 1996, p.38)
- (m) Hier, je ne *dormais* pas. (Agnès Abécassis, *Chouette, une ride !*, Collection Le Livre de Poche, 2009, p.256)
- (n) Ah ! j'*oubliais* un détail important. (Marc Levy, *Mes amis Mes amours*, Collection Pocket, 2006, p.139)
- (o) Je peux vous déposer ? Je *partais* pour le bureau. (Françoise Sagan, *Aimez-vous Brahms...*, Collection Pocket, 1959, p.19)
- (p) Fernstein me rappela alors que je m'*eclipsais*. (Marc Levy, *Le voleur d'ombres*, Collection Pocket, 2010, p.142)
- (q) Il *pleuvait* quand tu es sorti de la brasserie. (Thierry Jonquet, *Comedia*, Collection Folio, 2005, p.67)
- (r) J'avait rencontré mon mari l'été d'avant, il *passait* ses vacances à Fleurac. (Sébastien Japrisot, *Compartment tueurs*, Collection Folio, 1962, p.73)
- (s) Mary *finissait* de s'habiller quand Max revint dans la chambre. (Dean Ray Koontz, *Miroirs de sang*, Collection Pocket, 1977, p.57)
- (t) Il a *été* marié de vingt-trois à vingt-huit ans. (Cécile Krug, *Demain matin si tout va bien*, Collection J'ai lu, 2004, p.111)

- (u) — Vous êtes mariée ? — Je l'*ai été*. (Sébastien Japrisot, *Compartiment tueurs*, Collection Folio, 1962, p.102)
- (v) Elle *a été* infirmière. (Pierre Siniac, *Femmes blafardes*, Collection Rivages/Noir, 1981, p.55)
- (w) Jeanne *est sortie* avec mon frère, il y a vingt-cinq ans. (Agathe Hochberg, *Mes amies, mes amours, mais encore ?*, Collection Pocket, 2005, p.152)
- (x) J'*ai* longtemps *fumé*. (Fred Vargas, *Dans les bois éternels*, Collection J'ai lu, 2006, p. 176)
- (y) Je t'*ai aimée* telle que tu es, [...]. (Marc Levy, *Toutes ces choses qu'on ne s'est pas dites*, Collection Pocket, 2008, p.173)
- (z) Zut, j'*ai oublié* le nom... (Frédéric Beigbeder, *L'Égoïste romantique*, Collection Folio, 2005, p.293)

本研究はJSPS 科研費 15H03227 の助成を受けたものです。